



発行:青森市教育委員会事務局文化学習活動推進課 (Email:bunkagakushu@city.aomori.aomori.jp)
〒030-0801 青森市新町 1丁目 3-7 TEL:017-718-1384 FAX:017-718-1372

観測史上最多の真夏日を更新する暑い夏の日々から、やっと爽やかな季節となりました。

6月から始まった学校訪問は、現在40校(61校中)ほど終えました。校長先生をはじめ地域学校協働活動推進員やCSディレクターの皆さんから、「コロナ禍前のように活動ができるようになりました」とか、「コロナ禍の中から得た新しい活動を行っています」など、各学校それぞれ工夫して取り組んでいるお話を聞くことができ、うれしい限りです。

今回は、先日の研修会の報告と各中学校区で行われているCSの熟議についてお伝えします。



コミュニティ・スクール関係者等研修会 (文部科学省 CSマイスタープッシュ型派遣事業)

CS実施校の校長(教頭)、学校運営協議会会長、CSディレクター、地域学校協働活動推進員を対象にした研修会を、9月20日(水)、青森市教育研修センターで行いました。

講師は、CSマイスター、北海道科学大学教授の「出口寿久」氏で、講話「学校運営協議会の深化(進化)を目指して」と演習「模擬熟議を体験し、ファシリテートの手法を学ぶ」を行いました。70名近い参加者の皆さんは、「熟議」の意義と効果を体感し、ファシリテーターに必要な知識やスキルを学んでいました。以下、講話・演習内容の一部と参加者の感想です。

【講話内容】

- 学校の教育目標達成のためには、学校、家庭、地域それぞれができることを具体的に取り組むことが大切である。
- 全ては「子供たちのため」であり、それぞれの立場で、子供たちのためにできることは何か考える。地域づくりに取り組む大人の背中を子供たちは見て育つ。そのことが持続可能な地域づくりとなる。
- 12班に分けての、模擬熟議。(ファシリテーターは出口氏)

【感想(参加者アンケートより)】

- 学校運営協議会の役割等を再確認することができました。
- 初めて熟議を体験し、やり方がよく分かりました。回数を重ねて、地域を巻き込んで開催して、CSの良さを広く知ってもらいたいと思いました。
- 問題点のまとめ方が勉強になりました。この手法を今後生かしていきたいです。
- CSがうまく回るようになる、こういった研修会は大変ありがたいです。



◆これからの連絡会議予定◆

- 11~12月頃 情報交換会、先進地区事例紹介等連絡会議(協働活動研修)
- 2月頃 事例発表&来年度に向けた連絡会議(協働活動・CS別研修)
- ※「地域学校協働活動記録シート」の提出期限は、12月22日(金)です。



CS あれこれ ～ 熟議編 ～

《熟議：熟慮しながら議論を重ねること》

学校運営協議会を有意義な話し合いにしてくれる方法の一つに「熟議」があります。しかし、難しく考える必要はありません。例えばワークショップ形式で、小グループにおいて様々な考えを述べ合い、認め合い、子どもたちのために考えを深めていくことができればいいのです。熟議にも、様々なやり方や考え方があり、各地域の特性を生かしたものを作り上げていただければと思います。

●これまで市内の学校運営協議会で取り上げた熟議の主なテーマ(模擬熟議も含む)

「学校と地域がともにできること」

「9年間で育てたい子ども像」 →複数校区

「地域の子どもたちのためにできること」

「中学校区で育てたい子ども像」 →複数校区

「フューチャーデザイン ～30年後の防災活動を考える～」

「地域課題の解決や学校教育活動との協力体制や連携のあり方」

「浪岡を愛し、郷土に誇りをもち、地域に貢献する子の育成」

「育てたい子ども像を実現するために必要な教育活動、地域活動について」



◆熟議(ワークショップ)の基本的な流れ

- ◎事前準備 グループ分け、物品準備、できれば資料配布。
- ◎自己紹介 共通の話題を設定するなどのアイスブレイクあり。
- ◎役割決定 司会・進行、必要に応じ発表者を決める。ファシリテーターは大切。
- ◎話し合い 付箋に書いたキーワードを元に意見交換。模造紙に貼って類型化。
- ◎発表 思いの共有化のために発表。
- ◎まとめ CSDなどのファシリテーターが必要に応じてまとめる。次回も熟議を継続することもあり。

◆熟議(ワークショップ)成功のポイント

- ◎ほかの人の意見を否定しない。
- ◎必ず1回以上は話をする。
- ◎必ずしも答え(決)はいらない。
- ◎学校は地域を、地域は学校をよく知る。
- ◎話しやすい雰囲気を作り出す。

全ての熟議やワークショップがこうでなければいけない、というわけではありません。自分たちが一番気軽に話し合える形を作り、協議会が形骸化することなく、また話し合ってみたいと思える会議にすることが大切です。

【コラム】ハンドシェイク

学校訪問をしていると、「えっ！すごいなあ。すばらしい。」と思うことが多々あります。このコラムでは、そのような活動を紹介していきたいと思います。

浪岡地区の小学校での話です。その小学校では、学校花壇の草取り等の整備はPTAで行っています。でも、人手が足りず、どうしても花壇に雑草が残ってしまいます。すると、放課後にグラウンドを借りている野球クラブチームの保護者の方々が、自主的に草取りを行い、きれいになってとてもありがたいと校長先生が話していました。

小学校ではクラブ化が進み、ともすると学校とクラブとの関係が疎遠になっているところもあると聞いています。このような心温まるボランティア活動に拍手です。

編集後記・・・早いもので、今年度も折り返しとなり、2期制の学校では後期が始まったところもあります。当初の計画より若干遅くなりましたが、「てとて」第46号を皆様にお届けできほっとしております。しかしながら、新型コロナウイルスの罹患者が増えているようです。感染対策をしつつ、皆様どうぞご自愛ください。